

平成 22 年度 事務事業評価シート				新規 継続 変更				一般ソフト事業		施設等維持管理		行政事務					
事務事業名		子育て支援センター事業委託		予算事業名				担当課		健康福祉課							
会計名称		一般会計		予算科目		3 款 2 項 5 目		所属長名		藤 充子							
総合計画での 位置づけ		誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち						担当責任者名（記入者）		藤 充子							
								電話番号（内線）									
事業の性格		■ 内部管理事務 □ 法定事務				法令根拠等		久山町子育て支援事業実施要綱									
事業の対象		久山町に住所を有し、集団生活の経験がない就園前の在宅している乳幼児とその保護者				実施期間		【開始年度】		平成 22 年度							
								【終了年度】		平成 年度（予定） ■ 設定なし							
事業の目的		温かみのある福祉サービス久山町子育て支援センターにおいて、地域子育て支援拠点事業を実施することにより、子育て家庭等への支援や地域における子育て支援の向上を図る。				事業の内容		平日の10時から16時まで、毎日子育て支援「にこにこ広場」を開催する。子育て親子がいつでも気軽に参加できる場所と時間を確保して提供しながら、子育て家庭を支援する。平成22年度から次世代育成支援のソフト交付金の対象事業となった。									
改善策の具体的 取り組み（当初）		平成20年度から、健康文化交流センターを拠点に「なかよし広場」を開催していたので、利用される子育て親子が固定しがちであった。平成22年5月から、モデル住宅を開催場所として開放し、毎日の開催で時間も長くなったので、新たな利用者が期待できそうである。				改善策の具体的 取り組み （二次評価後）		広報の「子育て通信」に参加者の感想等を掲載して、活動内容の周知を図りながら参加を呼びかけたり、初めて参加された親子が明日も来たくするようなコミュニケーションに心がけたりして、見守っていく。									
事業費及び財源内訳（千円）																	
項目		21 年度決算		22 年度予算		9月末の執行状況		22 年度決算		事業活動の実績（活動指標）							
事業費	直接事業費	2,576		4,355				4,355		にこにこ広場参加親子数（延）	組	21 年度実績	22 年度予定	9月末の実績	22 年度実績		
	人件費	581		760		760											
	合計	3,157		5,115		5,115											
財源内訳	国庫支出金			2,177				2,177		赤ちゃんのへや母親数（延）	人	21 年度実績	22 年度予定	9月末の実績	22 年度実績		
	県支出金	1,717															
	地方債																
	その他																
	一般財源	1,440		2,938		2,938											
事務量	① 人工数	0.08		0.11				0.11		たんぼぼ組登録児童数（実数）	人	21 年度実績	22 年度予定	9月末の実績	22 年度実績		
	② 人件費単価	7,274		6,912		6,912											
	③補助事業人件費																
	人件費（①×②－③）	581.92		760.32		760.32											
向こう5年間の直接事業費の推移（千円）						23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		5年間の合計	
						4,355		4,355		4,355		4,355		4,355		21,775	
成果指標		「にこにこ広場」参加人数の把握				区分年度		21 年度		22 年度		23 年度		目標 年度			
						実績		781		1201							
						目標		800		800		1000					
指標設定の考え方		参加人数の増加は、事業のニーズ量があると考えられる。新たに利用される世帯数の参加状況も把握すれば、求められるサービス内容の工夫や提供の仕方等、今後の支援対策に生かすことが出来る。															
今年度の課題への 対応状況（途中経過）		木子里を毎日開所の拠点としながら、広報等の子育て通信を通して参加を呼びかけているので、多くの子育て親子の参加や利用の定着がかなり期待できている。															
事業 の 評価 所 属 長 の 評価	自己 評価 （ 担 当 責 任 者 ）	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的そのものである。 施策の目的に沿ったものである。 施策の目的に全くそぐわない。	5	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	A	自己 の 課 題 認 識	受付簿の集計をすることで、参加の状況や町民のニーズが伺えた。初めての参加も160世帯あった。毎日会うことでママ友もでき、育児不安の解消や子育て支援に貢献できていると思われるが、自分から出向くことができない方にどうやって対応すれば良いのが課題である。								
			市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1 市民ニーズに直結する。 受益者のニーズは捉えている。 市民ニーズを捉えたものと言えない。	5												
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与すべきものである。 今のところ関与は妥当と判断できる。 市が関与すべきでない。	4												
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民がおおいに満足している。 市民がほぼ満足している。 市民が満足していない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B										
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 具体策が明確で、成果実績が向上している。 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 問題を解決できる目処が全く無い。	5												
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に必要である。 施策推進につながらない。	4												
		効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 計画・手段が効率的である。 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B										
			コスト効率	5 4 3 2 1 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 予算額内で目標の80％以上の実績をあげた。 成果実績に対して、予算額が過大である。	4												
			受益者負担の適正	5 4 3 2 1 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 適当な受益者負担と判断できる。 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	3												
		一次 評価 （ 所 属 長 の 評価	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的そのものである。 施策の目的に沿ったものである。 施策の目的に全くそぐわない。	5	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E			A	所 属 長 の 課 題 認 識						
				市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1 市民ニーズに直結する。 受益者のニーズは捉えている。 市民ニーズを捉えたものと言えない。	5											
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与すべきものである。 今のところ関与は妥当と判断できる。 市が関与すべきでない。	4											
	有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民がおおいに満足している。 市民がほぼ満足している。 市民が満足していない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B										
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 具体策が明確で、成果実績が向上している。 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 問題を解決できる目処が全く無い。	5												
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に必要である。 施策推進につながらない。	4												
	効率性		手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 計画・手段が効率的である。 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B										
			コスト効率	5 4 3 2 1 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 予算額内で目標の80％以上の実績をあげた。 成果実績に対して、予算額が過大である。	4												
			受益者負担の適正	5 4 3 2 1 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 適当な受益者負担と判断できる。 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	3												

平成 22 年度 事務事業評価シート（裏面） 新規 継続 変更				一般ソフト事業		施設等維持管理		行政事務							
事務事業名		子育て支援センター事業委託		予算事業名				担当課		健康福祉課					
会計名称		一般会計		予算科目		3 款 2 項 5 目		所属長名		藤 充子					
総合計画での位置づけ		誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち						担当責任者名（記入者）		藤 充子					
								電話番号（内線）							
事業の性格		☒ 内部管理事務 ☐ 法定事務				法令根拠等		久山町子育て支援事業実施要綱							
事業の対象		久山町に住所を有し、集団生活の経験がない就園前の在宅している乳幼児とその保護者				実施期間		【開始年度】		平成 22 年度					
								【終了年度】		平成 年度(予定) ☒ 設定なし					
事業の目的		温かみのある福祉サービス久山町子育て支援センターにおいて、地域子育て支援拠点事業を実施することにより、子育て家庭等への支援や地域における子育て支援の向上を図る。				事業の内容		平日の10時から16時まで、毎日子育て支援「にこにこ広場」を開催する。子育て親子がいつでも気軽に参加できる場所と時間を確保して提供しながら、子育て家庭を支援する。平成22年度から次世代育成支援のソフト交付金の対象事業となった。							
改善策の具体的な取り組み（当初）		平成20年度から、健康文化交流センターを拠点に「なかよし広場」を開催していたので、利用される子育て親子が固定しがちであった。平成22年5月から、モデル住宅を開催場所として開放し、毎日の開催で時間も長くなったので、新たな利用者が期待できそうである。				改善策の具体的な取り組み（二次評価後）		広報の「子育て通信」に参加者の感想等を掲載して、活動内容の周知を図りながら参加を呼びかけたり、初めて参加された親子が明日も来たくなるようなコミュニケーションに心がけたりして、見守っていく。							
（自己評価） （担当責任者） 課題認識		妥当性		目的の妥当性		5		A		目的の妥当性		妥当性		（所属長） 一次評価	
				市民ニーズへの対応		5				市民ニーズへの対応					
		市の関与の妥当性		4		市の関与の妥当性									
		有効性		事業の効果		4		B		事業の効果		有効性			
				成果向上の可能性		5				成果向上の可能性					
				施策への貢献度		4				施策への貢献度					
		効率性		手段の最適性		4		B		手段の最適性		効率性			
				コスト効率		4				コスト効率					
				受益者負担の適正		3				受益者負担の適正					
		課題認識		受付簿の集計をすることで、参加の状況や町民のニーズが伺えた。初めての参加も160世帯あった。毎日会うことでママ友もでき、育児不安の解消や子育て支援に貢献できていると思われるが、自分から出向くことができない方にどうやって対応すれば良いのかが課題である。				自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。		新規利用の子育て親子の増加から、いつでも出向いて行ける本事業の効果が大きいことは伺えるが、子育て支援を本当に必要とする親子にどう対応すれば良いのかが今後の課題である。					
施策を踏まえた判断		二次評価		☐		一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。				指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。					
				☒		一次評価結果のとおり事業継続と判断する。									
				☐		一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。									
				☐		一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。				一次評価をやり直し、 月 日 までに事務局へ提出すること。					
				☐		市民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。				行政評価委員会で評価する。 答申期限： 月 日					
				☐		一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。									
				☐		一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。									
行政評価委員会の答申		外部評価		答申の内容 計画どおり事務事業を進めることが適当である。町のHPでも事業が活発に実施されていることがうかがえる。子供同士だけでなく保護者間の交友や情報交換の場として多くの子育て世代にセンターの存在を認知してもらえよう、引き続き情報提供を行っていただきたい。											
経営者会議の最終判断		事業の方向性													
		☐ さらに重点化する。 ☒ 現状のまま継続する。 ☐ 右記の点を見直しの上、継続する。 ☐ 事業の縮小を検討する。 ☐ 事業の休止、廃止を検討する。					コメント欄 多くの保護者の交流の場となるため、施設概要及び事業内容等の情報発信を強化していく。								